

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	教育環境充実事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける教育 の推進		
					Ⅲ－3－(1)		
事業内容	・児童生徒に対し、個々に応じたきめ細かなサポートを行うため、小中学校にそれぞれ特別支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	24,519	23,994	30,235	31,940	33,884
		(b)予算現額	19,186	23,949	28,450	32,340	33,884
		(c)増減額(b-a)	-5,333	-45	-1,785	400	0
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		19,186	23,949	28,450	32,340	33,884
	B. 執行済額		19,186	23,949	28,450	31,790	31,457
	うち交付金充当額		15,349	19,159	22,759	25,432	25,164
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	98.3%	92.8%
予算の状況の説明		・特別支援員(有資格者・無資格者)は、当初目標どおり配置出来たが、退職(3人)により支援員を配置できなかった期間が発生したため当初予算との乖離が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	支援員の配置人数 ・小学校(有資格)3人 (無資格)9人 ・中学校(有資格)1人 (無資格)3人	目 標	(小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)3人)	(小(有)3人(無)6人 中(有)1人(無)3人)	(小(有)3人(無)9人 中(有)1人(無)3人)	(小(有)3人(無)9人 中(有)1人(無)3人)	
		実 績	小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)3人	小(有)3人(無)8人 中(有)1人(無)3人	小(有)3人(無)9人 中(有)1人(無)3人	小(有)4人(無)8人 中(有)1人(無)3人	
			目 標	()	()	()	()
			実 績				
達成 状 況 説 明	・特別支援員(有資格者・無資格者)は、当初目標どおり配置出来たが、中学校において2学期より有資格者の退職による欠員があり中途募集をしたが後任を採用することが出来なかった。 ・現場職員と情報交換を行い、支援の必要なところには適切に配置、サポートすることができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	対象となる児童生徒が学校生活や学習上の困難の改善を図ることができたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		100%	97%	96%	
			目 標	()	()	()	()
			実 績				
	進 捗 状 況 説 明	・アンケート結果について、特別支援員(有資格者)や特別支援員(無資格者)の配置により学校生活や学習上の困難の改善を図ることができたとの回答が96%となり、目標を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・支援員の児童生徒とのかかわり方や支援方法について研修内容の検討。 ・支援を強化するために人員確保が必要である。 ・特別支援員（有資格者）は、当初各学校に計画通り配置できた。途中退職（2人）がありその後補充することが出来なかった。 ・特別支援員（無資格者）は、当初各学校に計画通り配置できた。途中退職（1人）があったがその後補充することができた。	・状況は絶えず変化するため定期的に連絡会及び研修会を行い、支援員個々のスキル向上や各校の取り組みの標準化を図る必要がある。 ・年度途中で退職者があり支援員の人員の確保に務めたが目標人数を配置することができなかった。支援業務は多岐に及ぶことから増員を検討する。
今後の取り組み方針		
・支援が必要な対象者も増えているため人員の増員も含め、支援の必要などには適切に配置、サポートする体制を構築するとともに教育委員会、現場職員、支援員の連携を密に行い連絡会・研修会を通して情報交換し、状況を把握する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31,457</td><td>31,457</td><td>25,164</td><td>6,293</td><td>251</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	31,457	31,457	25,164	6,293	251
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
31,457	31,457	25,164	6,293	251										
今帰仁村 31,457千円 報酬 22,697千円 支援員の報酬(16人) 22,697千円 小学校(特別支援員((有))4人 特別支援員(無)8人 中学校(特別支援員((有))1人 特別支援員(無)3人 職員手当等 4,353千円 支援員の職員手当等(16人) 4,353千円 小学校(特別支援員((有))4人 特別支援員(無)8人 中学校(特別支援員((有))1人 特別支援員(無)3人 共済費 3,934千円 支援員の共済費(16人) 3,934千円 小学校(特別支援員((有))4人 特別支援員(無)8人 中学校(特別支援員((有))1人 特別支援員(無)3人 旅費 473千円 支援員の旅費(16人) 473千円 小学校(特別支援員((有))4人 特別支援員(無)8人 中学校(特別支援員((有))1人 特別支援員(無)3人														
資金使途の流れ、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援員については、公募にて行い面接決定している。特別支援員（有資格者）においては、「教員免許の所持」を条件として定めており、適切かつ妥当な選定である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、目標を達成でき、適切なものとなっている											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	児童生徒等の県外派遣事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4-3-(9)-イ	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	H25～R13		沖縄振興基本方針該当箇所	希望と活力にあふれる「スポーツアイランド沖縄」の形成	
事業内容	III-3-(2)						
事業内容	今帰仁村に在住する児童生徒、村立小・中学校の児童生徒並びに今帰仁村に所在する県立高等学校の生徒が、各種スポーツ大会等に参加する為の県外派遣費を支援する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		(b)予算現額	1,330	350	750	1,299	2,000
		(c)増減額(b-a)	330	-650	-250	299	1,000
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	1,330	350	750	1,299	2,000
	B. 執行済額		1330	398	733	1,151	1,419
	うち交付金充当額		1064	318	586	921	1,135
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	113.7%	97.7%	88.6%	71.0%
予算の状況の説明		上半期は例年の2倍の申請件数・人数があり、実績の大幅な増加が見込まれたが、年度末は例年よりも件数が少なかった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	各種媒体での広報活動(3つ以上)	目標	()	()	()	(広報活動(3つ以上))	
		実績				3つ	
	保護者へのアンケートによる効果検証(全数実施)	目標	()	()	()	(全数実施)	
		実績				108件/108件(100%)	
達成状況説明	各種媒体での広報活動として3つ(村広報誌、デジタルサイネージ、チラシ)を行なったことで、補助実績人数及び件数ともに増えている。 詳細については以下の通りとなっている。 ・小学校 4件(18人) ・中学生 6件(12人) ・高校生 18件(76人) ・監督等 (2人)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	事業申請(相談)件数 : (10件以上)	目標	()	(10件以上)	(10件以上)	(10件以上)	()
		実績		13件	18件	28件	
	県外の人との競争や交流を通じて、児童生徒の主体的なスポーツ競技への参画につながったか(80%以上)	目標	(80%)	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		97.70%	8860%	99.10%	
	進捗状況説明	28件の相談件数があり、目標値10件を達成した。広報活動による事業周知について一定の成果があったと考える。 保護者へのアンケートの結果、「県外の人との競争や交流を通じて、児童生徒の主体的な競技への参画につながった(又は今後、競技参画への主体性が増す)」との回答が99.1%であり、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・アンケート結果から、事業利用者の満足度は高く、一定の成果が出ていると考えられる。 ・村在住で村外に通学し、スポーツ活動に熱心に取り組んでいる児童生徒に対し、経済負担の格差が生じることは不公平であるため、公平性担保の観点から要綱改正を行なった。	・アンケート結果から、事業利用者の満足度は高く、一定の成果が出ていると考えられる。 ・村在住で村外に通学し、スポーツ活動に熱心に取り組んでいる児童生徒に対し、経済負担の格差が生じることは不公平であるため、公平性担保の観点から要綱改正を行なった。
今後の取り組み方針		
・今後も継続的に本事業を行ない、村在住の児童生徒のスポーツ活動を推進する。またデジタルサイネージ等を積極的に活用し、事業周知を行なう。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,838</td><td>1,419</td><td>1,135</td><td>284</td><td>1,419</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,838	1,419	1,135	284	1,419
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,838	1,419	1,135	284	1,419										
今帰仁村 1,419千円 → 補助金申請者・団体 1,419千円 ほか、受益者負担分 （交付対象外経費） 1,419千円 （ 小中学校の児童生徒や県立高校の生徒が、県外で開催される各種スポーツ大会等に参加する際の派遣補助金（航空運賃の1/2） ）														
資金使途の流れ、点検・評価項目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・村要綱に基づき、各団体の申請に対する審査を行ない選定しているため、妥当である。 ・予算規模は適正である。 ・村要綱に基づき航空運賃の1/2補助となっており、受益者との負担関係は妥当である。 ・費目、使途は村要綱で明示されており、各団体申請・実績に基づき真に必要なものに限定している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	キャリア教育推進支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)一ウ	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の雇用推進	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	農業が基幹産業の本村にとって高校卒業を機に村外へ出る生徒が少なくない。地域の良さを再認識・再発見し新しい時代・環境に適應できる人材を育成する為、各校の授業カリキュラムと関係団体や地域人材と連携を行い、以て将来地域貢献・社会貢献できる人材の育成に努める。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	—	4,233	4,356	4,093	3,988
		(b)予算現額	—	2,363	2,708	3,667	3,988
		(c)増減額(b-a)	—	-1,870	-1,648	-426	0
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)	—	2,363	2,708	3,667	3,988	
	B. 執行済額		—	2,363	2,708	3,637	3,906
	うち交付金充当額		—	1,890	2,165	2,910	3,125
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		—	100.0%	100.0%	99.2%	97.9%
予算の状況の説明		新型コロナウイルス感染症等の感染対策等をしっかり行い概ね予定していた計画どおりに執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	キャリア教育コーディネート・職業観を育む活動・経営意識を育む活動	目標	(1,800名)	(1,800名)	(1,800名)	(1,800名)	
		実績	3,368名	3,714名	3,426名	4,066名	
	キャリア教育に係わる講演会	目標	(2回)	(2回)	(2回)	(2回)	
		実績	0回	4回	4回	4回	
	県外インターシップ研修事業	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	中止	中止	実施	実施	
達成状況説明	・地域連携コーディネーターの配置、講演会、県外インターンシップ事業、教育ファーム事業、プロデューサー育成事業は、目標どおり実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	就業に対する意識が向上したか(80%以上)を含め、各プログラムに参加した児童生徒に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		98%	94%	95%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					

	進 捗 状 況 説 明	・キャリア教育を受けた児童へのアンケートの結果について、就業に対する意識が向上したとの回答が95%となり、目標を達成できた。
--	----------------------------	--

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・予定していた事業を全て行うことができ、児童生徒の就業に対する意識向上につながった。 ・コロナウイルス感染症などの影響から事業の開催時期や内容を変更することもあった。	・就業意識の向上のため産・官・学が協力する必要がある。 ・学校と連携を図り、事業の開催時期等を再度検討する。 ・事前研修や事後研修の内容や環境を充実していく必要がある。 ・講習や交流会・講演会などにおいてWeb等を利用し学校においてもICTの活用に取り組んでいく。機材や設備等の充実が必要となる。
今後の取り組み方針		
・教育ファーム事業にて畑作業などを通して校種間連携をおこないキャリア発達の特性を深める。 ・各校の児童生徒学年により必要な指導方法が異なるため、各校の状況に合わせた取組のサポートを継続し実施していく。 ・新しい環境で適応できる人材を育成するため、児童生徒の就業における意識の向上やスキルの向上に取り組み、実施予定事業の精査を行う。 ・今後も継続してキャリア教育の推進を支援していくことで児童生徒の就業意識の向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		4,160	3,906	3,125	781	254
今帰仁村 4,160 千円		報酬 2,118 千円	→	会計年度任用職員(1名) 2,118 千円	〔 キャリア教育コーディネーターの報酬(1名) 〕	
		職員手当等 420 千円	→	会計年度任用職員(1名) 420 千円	〔 キャリア教育コーディネーターの職員手当(1名) 〕	
		共済費 371 千円	→	会計年度任用職員(1名) 371 千円	〔 キャリア教育コーディネーターの共済費(1名) 〕	
		報償費 30 千円	→	講演者謝礼金 30 千円	〔 講師1名×4講演、講師1名×1講演 〕	
		旅費 826 千円	→	県外インターンシップ 826 千円		
		需用費 132 千円	→	消耗品費 132 千円		
		役務費 5 千円	→	通信運搬費 5 千円		
		使用料 4 千円	→	高速使用料 4 千円		
					ほか、交付対象外経費 254 千円	
資金の 使途の 流れ、 点検・ 評価	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○地域連携コーディネーターについては、公募にて行い書類選考及び面接により決定しており、適切かつ妥当な選定である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			○予算規模は、事業に必要なものに限定しているので適正な規模である	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。			○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	教育支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4-5-(2)-イ	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進	
事業内容	Ⅲ-3-(1)						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,283	1,812	1,777	2,001	
		(b)予算現額	1,183	1,533	1,773	2,001	
		(c)増減額(b-a)	-100	-279	-4	0	
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		1,183	1,533	1,773	2,001	
	B. 執行済額		1,183	1533	1,642	1,715	
	うち交付金充当額		946	1228	1,313	1,372	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	92.6%	85.7%	
予算の状況の説明		当初見込み(2,003)より、執行済額▲220となったが、ほぼ計画とおりに進めた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	定期巡回学校訪問(3小学校 1中学校) 回数:原則1校あたり月1回(4h)年12回	目標	(小36回 中12回)	(小36回 中12回)	(小36回 中12回)	(小36回 中12回)	
		実績	小38回 中12回	小45回 中15回	小45回 中15回	小36回 中10回	
	教育指導検査 内容:対象となる児童生徒の心理検査及び面談 回数:心理的検査64回、保護者面談61回	目標	(検査55回 面談30回)	(検査46回 面談44回)	(検査55回 面談55回)	(検査60回 面談65回)	
実績		検査42回 面談56回	検査46回 面談44回	検査64回 面談61回	検査52回 面談50回		
達成状況説明	臨床心理士及び教育指導検査員を派遣し、学校生活への不適応や対人関係で問題が生じている児童生徒に対して支援を行った。 定期巡回相談は、臨床心理士が3小学校、1中学校に月1回(緊急対応月あり)学校訪問を行い特別な支援が必要な児童生徒へ面談を行った。1日に対応出来る時間の増対応が可能となったため、回数減になったが、実質時間数は増となった。 教育指導検査は、対象となる児童生徒の心理的検査及び面談を行い、保護者へのフィードバックの際に検査結果の内容等説明しながら相談対応を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	対象となった児童生徒のうち、問題の解消や症状が改善したと判断した割合(62%以上)を含め、養護教諭や特別支援員へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(61%)	(62%)	(62%)	()
		実績		91%	100%	100%	
	【参考指標】 過去の実績参考に設定。直近3年分の平均値を上回ることを目標に62%以上と設定した。 R1:対象31人 改善19人 61.2% R2:対象50人 改善31人 62.0% R3:対象54人 改善34人 62.9% 平均62%	目標	()	(61%)	(62%)	(62%)	()
		実績		66%	92%	98%	
進捗状況説明	・対象となった児童生徒のうち、問題の解消や症状が改善したと判断した割合の目標値は62%以上としたが、アンケート結果は100%が改善したとの回答であり目標値を上回った。 ・過去の実績を参考に直近3年分の平均値を上回ることを目標に62%以上としたが、実績では98%が改善したと回答があった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・臨床心理士による巡回相談（月1回4時間）を実施することを目標としているが、各学校から実施時間の増や、午後からの対応希望がある。 ・教育支援指導員による対象児童生徒の心理検査を実施するにあたり、該当児童生徒が年々増加傾向にある。	・臨床心理士による巡回相談の回数の増については、学校や臨床心理士と調整し適宜対応する。また、児童生徒だけではなく、対応にあたる教諭への指導やアドバイスが出来るよう調整を行う。 ・特別支援教育の充実を図るため、教育支援指導員の確保に努めた。教育支援指導員による心理検査の実施及び面談、就学先決定後のフィードバックの充実を図る。
今後の取り組み方針		
・臨床心理士による巡回相談は月1回4時間を実施することを目標とするが、緊急時や変則的な状況においても対応できるよう臨床心理士の確保に努める。また、児童生徒だけではなく、対応にあたる教諭への指導やアドバイスが出来るよう、教諭の対応が出来るよう調整を行う。 ・教育支援指導員（心理検査員）と、保護者や担任面談に関しては、通常同日で行っているが、対象児童生徒の増加により、調整が厳しい状況が多かった。今後は学校や検査員と要相談し、効率良い事業進行に努める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,716</td><td>1,716</td><td>1,372</td><td>344</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,716	1,716	1,372	344	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,716	1,716	1,372	344	0										
今帰仁村 1,716千円 報酬費 52千円 報償費 1,500千円 旅費 65千円 需用費 99千円 巡回相談 1,040千円 教育支援指導 (心理検査及び面談) 676千円 3小 1中 (月1回、臨床心理士の巡回訪問) 教育支援指導 R5年度 対象者:52人														
資金使途の流れ、点検・評価項目	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○専門職へ委嘱しているのが、妥当であったと考えている。 ○不用額はなしであり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	教育相談事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4-5-(2)-イ	
担当部署名	学校教育課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	児童生徒の不登校や問題行動等を改善するため、今帰仁村教育委員会に相談室を設置し、児童生徒のサポート体制の強化を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	—	1,816	1,826	1,826	3,825
		(b)予算現額	—	1,815	1,806	1,826	4,279
		(c)増減額(b-a)	—	-1	-20	0	454
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		—	1,815	1,806	1,826	4,279
	B. 執行済額		—	1,815	1,806	1,826	4,042
	うち交付金充当額		—	1,452	1,444	1,460	3,233
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		—	100.0%	100.0%	100.0%	94.5%
予算の状況の説明		相談員を会計年度任用職員として採用したため、交付対象経費増額となった。(人勤による遡及払い等において人件費の増)					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	教育相談事業 今帰仁村教育委員会へ教育相談員を配置する。	目 標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)	
		実 績	2人	2人	2人	2人	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	教育相談員2名を今帰仁村教育委員会の会計年度職員として任用したため、1年を通してに相談員を配置することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	対象となる児童生徒の不登校や問題行動等の課題解決につながったかを含め、学校及び保護者に対するアンケート(87%以上)により本事業のあり方を検証する。	目 標	()	()	(87%)	(87%)	()
		実 績			89%	90%	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	不登校や問題行動等の課題解決に改善が見込まれたと、実績が目標を2%上回っていた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	不登校や問題行動等を課題を抱える児童生徒や保護者を対象にカウンセリング等による支援を行い、不登校の改善を図る。	児童生徒の不登校、悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また保護者の相談相手として相談員を配置し、児童生徒及び保護者の悩みの根元を相互理解・解決に向けて、寄り添い話し合い、安心して登校出来るよう学校とのパイプ役とする。
今後の取り組み方針		
今後も引き続き、多くの児童・生徒、保護者と関わる機会を増やす。また、関係機関と情報を共有し、円滑な支援環境を整え不登校の児童生徒に対し、教育相談室や空き施設等を利用し、学習のサポートが出来るよう取り組み検討する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,119</td><td>4,042</td><td>3,233</td><td>809</td><td>77</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,119	4,042	3,233	809	77
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,119	4,042	3,233	809	77										
今帰仁村 4,042 千円 ほか、対象外経費 (77千円) 報酬費 2,918 千円 職員手当等 474 千円 共済費 596 千円 旅費 54 千円 ほか、地方負担分（交付対象外経費） 77 千円 教育相談員：2名 教育相談員：2名 期末手当（6月、12月） 教育相談員：2名 社会保険料等 教育相談員：2名 通勤手当等 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員														
資金の流 れ・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○相談員へ委嘱しているので、妥当であったと考えている。 ○不用額はなしであり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	中高生海外語学留学支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	国際性豊かな人材を育成するため、留学支援事業を行い、ホームステイを通して外国文化を学び、国際的な視野を持つ人材育成を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,726	2,731	2,731	3,828	4,244
		(b)予算現額	2,519			3,282	3,210
		(c)増減額(b-a)	-207	-2,731	-2,731	-546	-1,034
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		2,519	0	0	3,282	3,210
	B. 執行済額		2519	0	0	2,934	3,210
	うち交付金充当額		2015	0	0	2,347	2,568
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	0.0%	0.0%	89.4%	100.0%
予算の状況の説明		新型コロナウイルス感染症の影響により、中学生について事業未実施となったため、その分予算は減額となった。高校生については計画どおり実施し、年度内で支払いを終え予算範囲内で適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	本村今帰仁中学校に在学する中学生2人をハワイ州に、北山高等学校に在学する本村出身高校生6人をジョージア州に2週間ホームステイさせる。	目 標	(中学生:0人 高校生:0人)	(中学生:0人 高校生:0人)	(高校生:6人)	(中学生2人 高校生:6人)	
		実 績	中学生:0人 高校生:0人	中学生:0人 高校生:0人	高校生:6人	中学生0人 高校生:6人	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・高校生海外語学留学支援事業 高校生6人 留学先:米国ジョージア州 R6.2.19～R6.3.1まで ・事業計画どおりに高校生の海外ホームステイを実施し、目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業を検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		0%	100%	100%	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・中学生の留学については、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。 ・帰国後の保護者アンケートで、「生徒の国際的な視野がより広まった」との回答が100%となり、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・中学生の留学について、民間事業の活用を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で実施されなかった。 ・生徒への事前研修や、委託業者及び学校との事前調整を実施し、生徒が海外の文化に安心して触れる環境を構築できたことが目標達成の要因と考えられる。	・中学生の留学について、高校生の留学に参加できないかなど、村独自の中学生留学プランを検討する。 ・目標の達成に向け、引き続き事前研修や事前調整の内容を精査し、さらなる安心安全な環境の提供に繋げる。
今後の取り組み方針		
・高校生留学の受け入れ先に、中学生の受け入れも可能か調整する予定。また、並行して村独自の中学生留学プランについても旅行業者や学校と検討・調整を行い、中学生海外語学留学事業の実施を図る。 ・安全安心な環境の確保に向け、委託業者や学校とR5年度の事業実施内容を改めて確認するとともに、今年度の取り組みについての調整を密に行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>4,700</td><td>3,210</td><td>2,568</td><td>642</td><td>1,490</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,700	3,210	2,568	642	1,490
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,700	3,210	2,568	642	1,490										
今帰仁村 3,210千円 → 委託料 3,210千円 → 公益社団法人 日本国際生活体験協会 3,210千円 令和5年度今帰仁村高校生海外短期留学派遣事業 海外ホームステイ研修管理委託業務 ほか、生徒負担分(交付対象外経費) 6名×136千円＝816千円 引率者分(対象外経費) 1名×674千円＝674千円														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は派遣生徒の安全・安心が最も優先されるため、競争入札は、安全面等確保の配慮に欠けると判断し、日本国際生活体験協会との随意契約に至った。 ○高校生向けの海外留学を実施している委託先を選定し事業を行い妥当だと考える。 ○事業内容に見合った経費となっており、予算規模は適正である。 ○総事業費の2割相当額を自己負担(交付対象外経費)としているため受益者負担は妥当であると考ええる。 ○費目・使途については、語学留学支援や、研修費に使用し適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村									
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1-⑦		人材育成事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		4-5-(1)-エ	
担当部署名	社会教育課		事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進		
事業内容	本州の北を訪れることにより県外児童生徒との共調性を向上させることができるため、沖縄県外における生活環境や異文化を、本研修を通して体験することができる。この経験を基に、子どもたちが日本国内外で活躍する人材を育成する。 児童生徒の健やかな成長をするため、山形県酒田市の文化に触れ、県外の児童生徒と交流を通して、自主性・協調性の向上を図る。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の 状況			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
			(a)当初予算額	4,617	5,586	5,586	4,265	6,169		
			(b)予算現額	4,588	0	0	4,265	5,977		
			(c)増減額(b-a)	-29	-5,586	-5,586	0	-192		
			(d)繰越額							
	A. 計(b+d)		4,588	0	0	4,265	5,977			
	B. 執行済額		4588	0	0	4,859	5,407			
	うち交付金充当額		3670	0	0	3,887	4,325			
	次年度繰越額									
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	113.9%	90.5%			
予算の状況の説明		当初、委託旅行会社の見積と、社会情勢により、燃料費をはじめとする物価が高騰し委託料に不足が生じるため増額した。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)			達成状況						
					R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	本村小学生を対象に、山形県酒田市の児童と文化学習会等の交流事業を行う。 派遣児童数:36人			目 標	(36人)	(36人)	(36人)	(36人)		
				実 績	事業中止	事業中止	36人	34人		
				目 標	()	()	()	()		
				実 績						
達成状況説明	・山形県の文化に触れ、体験学習や交流を行い見聞を広めることができた。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)		
	交流を通じて児童の異文化に対する視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより、本事業を検証する。			目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()	
				実 績		事業中止	100%	100%		
				目 標	()	()	()	()	()	
				実 績						
	進捗状況説明	児童は、派遣後事後研修において振り返りの作文を作成、発表を行った。 児童の個人のテーマ、班のテーマについて振り返りを行い、研修をとおして異文化に対する視野が広がったと大多数の団員が感じていた。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	県外での交流を通じて山形県の特産品や生活環境など、児童から見た他文化に対する視野が広がったことが80%以上目標値達成の要因と考えられる。	事前研修で山形県酒田市の文化・自然の学習を行い、学校で交流会を実施したが、親交が深まるまでに時間を要した様子であったので、コミュニケーション能力の向上を含めた事前研修のあり方について検討を要する。
今後の取り組み方針		
県外での交流を通じて山形県の特産品や生活環境など、児童から見た他文化に対する視野が広がったが、今回体験することができなかったスキー体験や民泊体験については、今後、現地との調整を図り、実施できるように取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,977	5,407	4,325	1,082	570

今帰仁村
5,407千円

委託料
5,038千円

事務費
369千円

名護ツアーセンター
5,038千円

報償費
110千円

需用費
250千円

役務費
9千円

今帰仁村「ふれあい少年の翼」
実施に関する旅行委託業務

今帰仁村「ふれあい少年の翼」
実施に関する事務費

ほか交付対象外経費 570千円

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、一般競争契約で選定し妥当であったと考える。 ○予算規模については、適正な規模だと考える。 ○小学生を対象とした交流事業を行う目的のための支出であり、関係する書類等を検証した結果適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	環境保全美化推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部課名	経済課、建設課、住民課、社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	・本村の観光拠点である今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化作業を実施し、観光客の受入体制を整える。 また、観光地として魅力的な景観形成を図るため、観光地及び観光ルートの美化を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	34,762	32,409	41,765	50,802	52,930
		(b)予算現額	35,762	31,560	37,330	49,249	55,177
		(c)増減額(b-a)	1,000	-849	-4,435	-1,553	2,247
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		35,762	31,560	37,330	49,249	55,177
	B. 執行済額		26,577	30,311	36,050	41,218	50,036
	うち交付金充当額		21,261	24,248	28,840	32,974	40,028
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		74.3%	96.0%	96.6%	83.7%	90.7%
予算の状況の説明		・悪天候により美化作業が行えなかった日が多々あり、予算の減額を行った。 ・作業員1名が途中退職した。1名募集していたが、申込みがなかったため予算残となった。 ・執行率90%以上であり、適切に執行できたと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	今帰仁城跡及び観光地の美化及び観光ルートの美化を行う。	目 標	観光地及び観光ルートの美化作業の実施	観光地及び観光ルートの美化作業の実施	観光地及び観光ルートの美化作業の実施	観光地及び観光ルートの美化作業の実施	
		実 績	観光地及び観光ルートの美化作業の実施	観光地及び観光ルートの美化作業の実施	観光地及び観光ルートの美化作業の実施	観光地及び観光ルートの美化作業の実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・今帰仁城跡、古宇利島を中心とした村内観光地や文化財のある観光ルートの美化作業を実施し、目標を達成した。 ・観光ルートのハブ等駆除対策、不法投棄等パトロール及び投棄物改修・処理等を実施した。 ・今帰仁城跡、村内文化財及び観光ルート周辺の危険木の伐採を実施し、台風前後に撤去することで被害を少なくできた。 ・世界遺産今帰仁城跡、古宇利島を中心とした観光地及び観光ルートの美化作業を実地することにより、観光客に今帰仁村の魅力を十分に満喫してもらうことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	【成果目標】 今帰仁城跡及び観光地等の美化を行い、観光地として魅力的な景観が確保されているか(80%以上)を含め、観光客等に対するアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		84.7%	90.5%	95.5%	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・観光客が村内の観光地を散策している状況のなかで、観光客が訪れる村内の観光地及び観光ルートの美化作業を実施することができた。 ・観光客等に対するアンケート調査の結果、「観光地として魅力的な景観が確保されている」との回答が95.5%となり、目標を達成した。 ・コロナ禍以前のように観光客が村内を訪れることが多くなりつつある中、昨年同様、今年度も実績目標値を上回る結果となった。 ・観光ルートのハブ等駆除対策、不法投棄等パトロール及び投棄物回収・処理等を実施した。 ・目標値を上回る数値となった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・近年観光客が訪れる場所の増加もあり、美化作業を実施する場所も増加した。 ・悪天候が続くと美化作業が遅れ、当初計画していた日程等にズレが生じる。 ・作業員増員に伴い道路使用に影響しないよう配慮しながら作業を進める。 ・観光客の増加、また訪れる場所の増加によって、ごみのポイ捨ての量や場所も増えている。 ・作業場所に応じて作業人数を調整したことにより、作業効率が向上した。	・地域住民からの声を聴き、美化作業場所の参考にする。 ・誘導員配等により交通の妨げないよう配慮している。 ・作業箇所の増加に加え、沖縄特有の気候に伴い雑草及び樹木の成長が早いため、同じ箇所を年に数回行う必要があり、効率的な作業の実施が求められる。効果的な防草対策の検討していく必要がある。 ・観光ルートを正確に把握し、不法投棄パトロールや投棄物回収・処理をより強化していく。 ・作業員の経験年数が多くなり作業効率が良くなる半面、事故等安全への配慮の低下。
今後の取り組み方針		
・美化作業箇所の増加に対応し、観光地として魅力的な景観を保つため、必要となる作業員数を確保し、計画的に作業を進める。 ・地域住民や区長等からの情報収集によって、安心・安全な観光ルートの美化作業を継続的に実施する。 ・作業人数の調整（班分けなど）や休憩・給水をこまめに行って、作業効率の向上、作業員の体力維持・精神面の安定の両立を目指したい。 ・朝礼にて、想定される事故等の再確認、防止策を共有し、事故防止に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
		総事業費		交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		50,050		50,036	40,028	10,008	14
今帰仁村 50,050千円	報酬 28,371千円	会計年度任用職員 20人	〔 環境保全美化推進に係る報酬 〕				
	職員手当 5,453千円	会計年度任用職員 20人	〔 環境保全美化推進に係る期末手当 〕				
	共済費 4,899千円	会計年度任用職員 20人	〔 環境保全美化推進に係る共済費 〕				
	旅費 839千円	会計年度任用職員通勤手当 20人	〔 環境保全美化推進に係る通勤手当 〕				
	需用費 5,973千円	燃料費及び消耗品等	〔 環境保全美化推進に係る需用費 〕				
	使用料 2,792千円	車両リース及び重機使用料等	〔 環境保全美化推進に係る使用料 〕				
	役務費 98千円	自賠責保険手数料	〔 環境保全美化推進に係る役務費 〕				
	委託料 708千円	危険木の伐倒	〔 環境保全美化推進に係る委託料 〕				
	原材料費 458千円	道路補修材料等	〔 環境保全美化推進に係る原材料費 〕				
	備品購入費 446千円	刈払い機等	〔 環境保全美化推進に係る備品購入費 〕				
	公課費 13千円	刈払い機等					
	〔 うち、交付対象外経費 14 千円 〕						

資金の流れ、 検査費目・ 使途の点検	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○見積価格などを踏まえ支出先を選定しているため妥当である
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業に必要なものに限定しているので適正な規模である
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	今帰仁城跡ガイド強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部署名	社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界に通用する観光人材の育成		
事業内容	今帰仁城跡への来場者に無料案内ガイドを行っている。 また、講演会や研修会を実施しガイドメンバーが研鑽に努めることで、ガイド内容の質向上が見込まれ観光地としての満足度および付加価値を高める。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	(a) 当初予算額	3,700	4,000	3,700	4,000	3,967	
	(b) 予算現額	3,700	3,520	3,700	4,000	3,967	
	(c) 増減額(b-a)	0	-480	0	0	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	3,700	3,520	3,700	4,000	4,042	
	B. 執行済額	3,700	3,520	3,626	3,700	3,967	
	うち交付金充当額	2,960	2,816	2,901	2,960	3,173	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	98.0%	92.5%	98.1%	
予算の状況の説明	当初予算では事業期間を多く見積もっていたことから執行率が98%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	今帰仁村には世界遺産今帰仁城跡が所在し、今帰仁グスクを学ぶ会によって来場者に無料の案内ガイドが行われている。学ぶ会の更なる充実強化を図ることでガイド個々の資質向上が図られ、世界遺産今帰仁城跡の魅力を観光客にアピールすることができるため、ガイドの強化を行う。	目標	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会、研修会の実施	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会、研修会の実施	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会、研修会の実施	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会、研修会の実施	
		実績	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会、研修会の実施	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会、研修会の実施	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会、研修会の実施	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会、研修会の実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	令和5年度は、臨時休業や団体予約の大幅なキャンセルはなく、案内ガイド事業を実施することができた。今年度実施した歴史文化講座(6/22から7/27までの期間で全5回のべ24名参加)を通してガイド内容の質向上が図られている。なお、学ぶ会では月に1度定例ミーティングが行われており、ガイド間の情報共有やガイド長期経験者による新規ガイドサポート教育を実施するなど、随時ガイドの教育が行われている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	ガイドによる来訪者の案内 10,000名	目標	()	(11,500名)	(11,000名)	(10,000名)	(10,000名)
		実績		5,407名	11,049名	9,699名	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	昨年度に比べ、就学旅行や団体の来場状況も徐々に回復し、全体の来場者数は200,595名となった。しかしコロナ前(令和元年度以前)に比べると8割に達していない。 令和5年度は歴史文化センターの展示内容について研修を実施し、研鑽を積んだ。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	令和5年度はコロナ禍の影響も少なくなり、就学旅行や一般団体客の来場が徐々に回復してきている。しかしまだ大幅な増加は無く、全体の来場者数はコロナ前（令和元年以前）に比べると8割に達していないため、成果目標が未達成となった。 今年度新たに4人のガイドが加入したものの、高齢化問題の解消はまだ厳しい状況である。	来場者が増加することで無料案内ガイドの利用者も増えることが期待できるため、学ぶ会HPでも取り上げるなど、来場者数の増加に向けて取り組む。また、村全体としても観光促進のPRをしてもらい、来場者数の増加につなげる。 これまで村主催の「歴史文化講座」の受講修了者に対してガイド登録を行ってきたが、会員の高齢化問題への対策が急務となってきたため、新規ガイド希望者について、長期経験者によるサポート教育を行っていく。
今後の取り組み方針		
令和6年度も引き続き講演会や研修会を通して、ガイド内容の質向上と各々の更なるスキルアップを図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>3,967</td><td>3,967</td><td>3,173</td><td>794</td><td>0</td></tr></table> 今帰仁村委託料 3, 967千円 → 今帰仁村グスクを学ぶ会 委託料:3, 967千円 〔 今帰仁城跡ガイド強化にかかる委託業務 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,967	3,967	3,173	794	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,967	3,967	3,173	794	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者である「今帰仁グスクを学ぶ会」は、ガイド業務について10年以上の実績があり、業務の計画や現場の状況に詳しく、この主の業務に精通した人員を擁しており、委託先として妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	予算規模については、観光客の増加に伴い予算増を検討する必要があるが、現状では適正である。また、支出に関する書類を随時確認しており適正に支出されていると確認できており問題ない。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	今帰仁村着地型観光推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部署名	経済課	事業実施 (予定)年度	令和元年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	着地型観光の促進及び滞在日数増やすため、本村の豊かな自然と歴史文化を体験できる活動を取り入れ、民泊事業者等の受け入れ体制強化及び誘致活動を行い、新規教育旅行民泊客の増加及びリピータ校の確保を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	0	11,727	20,990	19,790	16,807
		(b)予算現額	7,995	14,247	20,990	19,790	16,807
		(c)増減額(b-a)	7,995	2,520	0	0	0
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		7,995	14,247	20,990	19,790	16,807
	B. 執行済額		7,995	14,247	20,290	19,350	16,807
	うち交付金充当額		6,396	11,397	16,232	15,480	13,445
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	96.7%	97.8%	100.0%
予算の状況の説明		当初交付対象事業費はほぼ計画取りに進めることができた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	新しい生活様式に沿った民泊受入の実施 (民泊家庭を対象とした、開発した教育プログラム等の講習会)	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	専属職員の配置	目 標	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実 績	3名	5名	3名	3名	
	県内外での誘致活動	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	達成状況説明	・新型コロナウイルスの対応緩和に伴い、コロナ前同様の講習会を行った。 ・専属職員を当初の目標通り配置することができた。 ・県外での誘致活動は営業のみではなく、次年度来村予定の学校にて事前学習授業を行ったりオンラインを活用し事前学習を行った。また、パンフレットや手引き等を、県外の旅行社や学校へ送付を行った。					
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度
民泊次年度予約数		目 標	() ()	(16,000人) (70 校)	(16,000人) (70 校)	(12,000人) (60 校)	() ()
		実 績		14,201人 70校	11,103人 70校	10,293人 56校	
【参考指標】		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明		新型コロナ禍における令和5年度の予約目標は、コロナにより教育旅行の行先に変化が出始めた事を受け、R4年実績同等の値を適正値と見なし成果目標としている。予約延べ人数は10,923人で91%でおおむね達成。但し前年を若干下回った状況。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	業務においては、教育民泊旅行者がコロナ前に戻りつつあるが、コロナ前に比べ受入民泊家庭の数が減っている。	教育旅行者の受入態勢を整えるため、休眠となっている民泊家庭や新規民泊家庭への周知として本村の広報誌やデジタルサイネージを活用して、周知活動をおこなった。
今後の取り組み方針		
民泊自体がSDGs(持続可能な開発目標)と捉え、世界遺産今帰仁城跡や村内の集落や戦争遺構などの地域環境を活かしたプログラムも視野に入れ、教育旅行民泊の満足度向上を目指し、リピート校を始め受け入れ校の増加を図る。 また、コロナ禍の影響に伴うオンラインでの事前学習に着目し、事前学習に関与出来る可能性を探り、今帰仁民泊の満足度を高めリピート率の向上を図り、民泊の予約数の増加につなげる。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>16,807</td><td>16,807</td><td>13,445</td><td>3,362</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	16,807	16,807	13,445	3,362	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
16,807	16,807	13,445	3,362	0										
今帰仁村 16,807千円 委託料 16,807千円 今帰仁村観光協会 16,807千円 （着地型観光推進事業）														
資金 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、本村の教育旅行民泊を担っている事業所であり十分な実績があることから妥当である。 ・予算規模については委託業者から見積書を徴し、事業目的を達成するために必要な委託費であり、適正であった。 ・使途について、精算時に事業目的達成の観点から内容を確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村							
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-④	今帰仁村体験・滞在型観光推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部課名	経済課	事業実施 (予定)年度	令和3年度～令和13 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	Ⅲ-1-(1)							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	25,000	27,794	25,754			
		(b)予算現額	25,000	27,794	25,754			
		(c)増減額(b-a)	0	0	0			
		(d)繰越額						
	A. 計(b+d)		25,000	27,794	25,754			
	B. 執行済額		25,000	27,794	25,754			
	うち交付金充当額		20,000	22,235	20,603			
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		計画に沿って事業を実施できたので適正であった。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	宿泊及び体験プログラムの創出	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績		実施	実施	実施		
	情報発信	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績		実施	実施	実施		
	宿泊観光客把握のための調査	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績		実施	実施	実施		
	達成 状 況 説 明	・本村の地域資源を活かした体験プログラム及び宿泊プランを創出またブラッシュアップし、モニターツアーを行った。 ・体験プログラムのブラッシュアップ及び人材育成の観点と地域への理解を含め、村民への体験会を行った。 ・プログラム創出に伴い、トレーナー・セラピストの人材育成を行った(初級講座／中級講座の実施)。 ・働き方改革EXPOに出展、また首都圏にて独自セミナーを2回開催し情報発信及びモニターツアー参加募集を行った。 ・OCVB動向調査資料が入手出来る事により、当該情報より動向及び宿泊に関する把握を行った。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度
新たな宿泊体験プログラムの創出		目 標	()	(15件)	(15件)	(15件)	()	
		実 績		15件	15件	15件		
体験プログラムの販売		目 標	()	(0件)	(0件)	(5件)	()	
		実 績		0件	0件	1件		
連泊数3泊以上の村内宿泊観光客数300人増		目 標	()	(300人増)	(300人増)	(300人増)	()	
		実 績		0	0	65		
進 捗 状 況 説 明		・企業を対象としたプログラムを創出し、モニターツアーを行った。 ・令和3年度のアンケート調査によりターゲット変更の見直しに伴い販売活動は令和5年度より行う。また、宿泊観光客数増についても令和5年度以降の発現となる。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	企業に向けた取り組みを実施する中、本格的なサービスインに向け、体制面の整理を行った。整理した内容を元にR6年は強化に務める。	村の観光に対するコンセプトを設定し、村の魅力や特徴を伝わりやすくしていく。
今後の取り組み方針		
創出した体験プログラムのブラッシュアップを行い、継続的な事業者との連携および地域資源の活用を図り宿泊客の増加を目指す。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>25,754</td><td>25,754</td><td>20,603</td><td>5,151</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	25,754	25,754	20,603	5,151	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
25,754	25,754	20,603	5,151	0										
今帰仁村 25,754千円 委託料 25,754千円 今帰仁村観光協会 25,754千円 （体験・滞在型観光推進事業）														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、本村の観光事業者とのネットワークのある事業所であり十分な実績があることから妥当である。 ・予算規模については委託業者から見積書を徴し、事業目的を達成するために必要な委託費であり、適正であった。 ・使途について、精算時に事業目的達成の観点から内容を確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	観光力基盤強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	経済課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊 北山の風」、今帰仁まつり、ハーリー、桜まつり等の実施に対して補助する。また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産業の活性化につなげる。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,800	22,962	15,000	27,600	27,400
		(b) 予算現額	16,223	2,000	19,000	18,800	27,400
		(c) 増減額(b-a)	-1,577	-20,962	4,000	-8,800	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	16,223	2,000	19,000	18,800	27,400
		B. 執行済額	16,167	2,000	15,478	17,999	26,900
		うち交付金充当額	12,933	1,600	12,382	14,399	21,520
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	99.7%	100.0%	81.5%	95.7%	98.2%
	予算の状況の説明	・【現代版組踊 北山の風、今帰仁まつり、今帰仁ハーリー大会、今帰仁グスク桜まつり】計画通りに事業及び予算執行が出来た。 ・【古宇利島ハーフマラソン】R6.4月開催に向けて準備を進めていたが事業見直しが図られウォーキングイベントへ移行する事が決まったため実施しなかった。(ウォーキングイベント実施時期については調整中)					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	現代版組踊「北山の風」(11月・2月)	目 標	(11月・2月)	(11月・2月)	(11月・2月)	(11月・2月)	
		実 績	3月	12月	1月・2月	1月・2月	
	古宇利島ハーフマラソン(4月)	目 標	(4月)	(4月)	(4月)	(4月)	
		実 績	開催中止	開催中止	開催中止	開催中止	
	今帰仁城跡ライトアップ・桜まつり開催(1～2月)	目 標	(2月)	(1月～2月)	(1月～2月)	(1月～2月)	
		実 績	開催中止	1月～2月	1月～2月	1月～2月	
	今帰仁まつり(10月)	目 標	(8月)	(8月)	(10月)	(10月)	
		実 績	開催中止	開催中止	開催中止	8月	
	今帰仁ハーリー大会(8月)	目 標	(8月)	(8月)	(8月)	(8月)	
		実 績	開催中止	開催中止	開催中止	9月	
	三村交流事業(11月)	目 標	(11月)	(11月)	(11月)	(11月)	
実 績		開催中止	開催中止	開催中止	開催中止		
達成状況説明	・【現代版組踊「北山の風」】開催時期の変更はあったが2回の定期公演を実施し活動目標を達成した。 ・【今帰仁まつり、今帰仁ハーリー大会、今帰仁グスク桜まつり】活動目標を達成出来た。 ・【古宇利ハーフマラソン】開催に向けて準備を進めていたが事業見直しが図られウォーキングイベントへ移行する事が決まったため実施しなかった。 ・【三村交流事業】三村の日程調整が出来なかった事や、文化活動をおこなっている各種団体の参加が見込めないことから開催中止となった。						

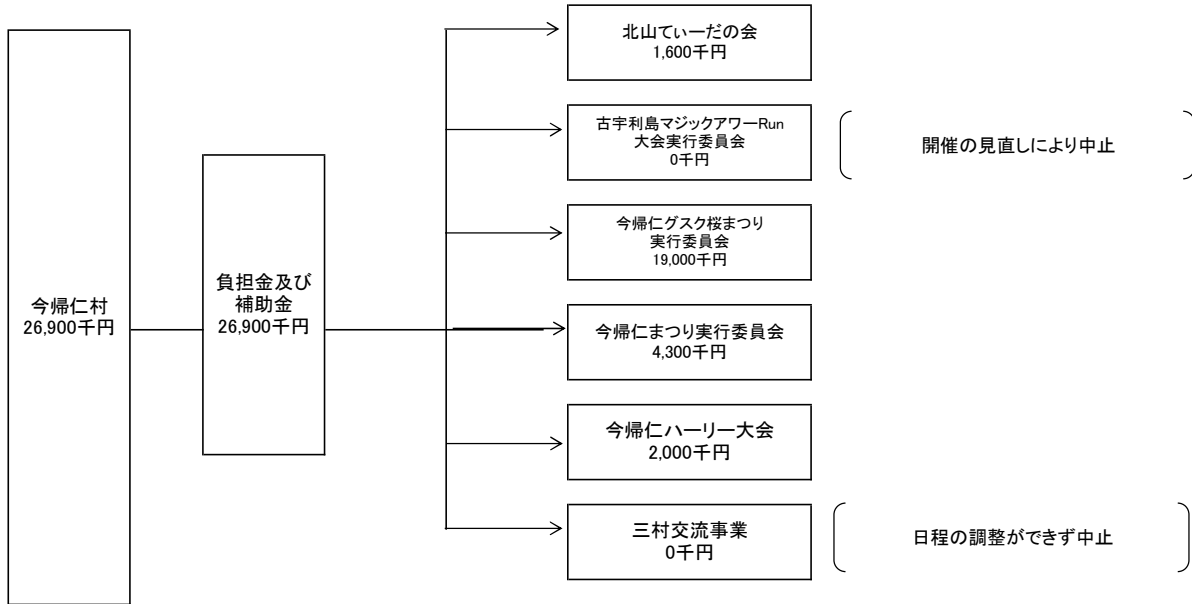
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)
	現代版組踊「北山の風」 来場者数:1,150人	目 標	()	(1,135人)	(1,150人)	(1,150人)	()	
		実 績	392人			1,278人	1,249人	
	古宇利島ハーフマラソン 来場者数:3,500人	目 標	()	(3,620人)	(3,500人)	(3,500人)	()	
		実 績	開催中止			開催中止	開催中止	
	今帰仁城跡ライトアップ・桜まつり 来場者数:3,000人/日	目 標	()	(30,000人)	(31,500人)	(27,000人)	()	
		実 績	9,187人			27,215人	25,309人	
	今帰仁まつり 来場者数:10,300人	目 標	()	(10,400人)	(10,300人)	(10,300人)	()	
		実 績	開催中止			開催中止	12000	
	今帰仁・ハーリー大会 来場者数:770人	目 標	()	(780人)	(770人)	(770人)	()	
		実 績	開催中止			開催中止	770人	
	三村交流事業 来場者数:1,100人	目 標	()	(1,100人)	(1,100人)	(1,100人)	()	
		実 績	開催中止			開催中止	開催中止	
進 捗 状 況 説 明	・【現代版組踊「北山の風」、今帰仁まつり、今帰仁ハーリー大会】成果目標を達成した。 ・【今帰仁グスク桜まつり】桜の開花が例年と比べ早いと予想されており開催時期を設定したが、実際の開花状況(5分咲き)と差異が発生したこと、1日のみ暴風雨により夜のライトアップを中止した事で、成果目標を達成する事が出来なかった。 ・【古宇利ハーフマラソン、三村交流事業】開催を実施しなかった為、成果目標を測れなかった。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・【現代版組踊「北山の風」】 令和4年度より県内各種イベント出演に併せて県外公演を取り入れPR活動を展開している。今後自走化に向けた取り組みを強化していくが、定期公演を実施していく上で、音響業者の発注が必須となり経費が大きく掛かり費用捻出が喫緊の課題である。 ・【今帰仁グスク桜まつり】 昨年度の課題として挙げられていた渋滞、駐車場不足については臨時駐車場の増加及び路駐対策等の実施で概ねスムーズに運用出来たが臨時駐車場からバスの運用において来場者を大きく待たせる事となった。また、運営スタッフのマンパワー不足を人材派遣会社の活用で解消したが、オープニングセレモニー等の調整不足があり、ステージ進行に大きな支障を来した。	・【現代版組踊「北山の風」】 協賛集めの強化や定期公演のチケット料の引上げ等を検討したい。 ・【今帰仁グスク桜まつり】 マイクロバスの増便等で来場者の満足度を下げない取組が必要である。また、渋滞時のマイクロバスの迂回路等の検討も必要。 ソフト部門（ステージ運用）とハード部門（会場設営・運用）で担当分けをして取組む必要がある。 開花状況を考慮し開催期間を1週後ろにずらす。
	今後の取り組み方針	
コロナ禍において、停滞している村経済の活性化を図る為、村内で開催するイベント等の支援を継続して行なうと共に、観光地として選ばれる地域になるためより一層充実したイベントの運営を実施していく必要がある。 また、収入が見込めるイベント実施団体においては自走化へ向けても取り組みを進めていく。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
26,900	26,900	21,520	5,380	0



資金 使途の 流れ、 点検 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○イベントを開催する実行委員会に限定し、選定を行っており妥当な選定だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、各実行委員会でのイベントに見合った適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金については、各実行委員会において、事業費の一部を負担しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○各イベントの事業目的達成の観点から、費用額及び使途については必要なものであり、支出は適正であった。

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	観光地安全強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部署名	社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受け入れ態勢の整備		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	桜まつりなどのイベントが開催され多くの来場者で賑わう1月～2月の期間において、世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全確保を図るため、駐車場及び横断歩道等に交通整理員を配置。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,189	4,189	4,169	6,411	6,340
		(b)予算現額	3,489	4,169	4,667	6,411	6,340
		(c)増減額(b-a)	-700	-20	498	0	0
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		3,489	4,169	4,667	6,411	6,340
	B. 執行済額		3,489	4,169	3,820	6,385	6,318
	うち交付金充当額		2,791	3,335	3,056	5,108	5,054
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	81.9%	99.6%	99.7%
予算の状況の説明		観光客数が増加傾向にあったため、例年通り実施。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	繁忙期(12月～2月)に今帰仁城跡の駐車場及び横断歩道に交通整理員を配置する。	目 標	交通整理員の配置 (12月～2月)	交通整理員の配置 (12月～2月)	交通整理員の配置 (1月～2月)	交通整理員の配置 (12月～2月)	
		実 績	交通整理員の配置 (12月～2月)	交通整理員の配置 (12月～2月)	交通整理員の配置 (1月～2月)	交通整理員の配置 (1月～2月)	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	観光客数がコロナ禍前と同程度に戻っており、桜まつりも実施したため観光客数、交通量ともに多かった。1月～2月の期間で整理員を配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	交通整理員が配置された箇所における事故件数0件	目 標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
		実 績		0件	0件	0件	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	世界遺産である今帰仁城跡を訪れる観光客の安全確保を図るため、交通整理員を配置することにより、配置箇所における事故件数は0件となり、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	早期に契約し、予定していた交通整理員の人数を確保することができた。	予定していた人数で、無事故で業務を遂行できたものの、より安全に行うために増員が必要だと感じた。
今後の取り組み方針		
・増員を図りたい。他イベントも開催される時期なので、早期に契約を締結できるように進める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>6,318</td><td>6,318</td><td>5,054</td><td>1,264</td><td>0</td></tr></table> 今帰仁村 6,318千円 委託料 6,318千円 北部港運(株) 6,318千円 今帰仁城跡来訪者安全対策にかかる委託業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,318	6,318	5,054	1,264	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,318	6,318	5,054	1,264	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、一般競争入札を行ったが、入札者がいなかったため、随意契約を締結。 ○予算規模については、過去事例と比較しており、適正な規模である。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即しているものであった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	今帰仁城跡周辺環境整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部課名	建設課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	魅力的な景観形成を図る為、河川全体の自然環境を最大限に活かし、景観に配慮した河川の整備を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和13年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	130,542	100,000	53,000	52,000	50,544
		(b)予算現額	130,168	79,111	38,027	94,245	49,918
		(c)増減額(b-a)	-374	-20,889	-14,973	42,245	-626
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		130,168	79,111	38,027	94,245	49,918
	B. 執行済額		130,168	79,111	38,027	92,435	49,918
	うち交付金充当額		101,608	63,288	30,421	73,948	39,934
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	98.1%	100.0%
予算の状況の説明		計画に沿って事業を執行できたので適正であった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	河川改修工事の実施	目 標	(右岸左岸工事 L=60m)	(右岸工事 L=45m)	(右岸工事 L=70m)	(右岸工事 L=42m)	
		実 績	右岸左岸工事 L=60m	右岸工事 L=45m	右岸左岸工事 L=68m	右岸工事 L=29m	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成 状 況 説 明	・令和5年度は、河川延長1,120mのうち河川整備工事(右岸L=29.63m)を実施。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R13年度)
	全体計画における3.8%整備 (累積整備率74.3%)	目 標	()	(L=45 累計整備 率64.0%)	(L=70 累計整備 率70.3%)	(L=42 累計整備 率73.8%)	()
		実 績		L=45 累計整備率 64.0%	L=68 累計整備率 70.1%	L=29 累計整備率 72.7%	
	【R13成果目標】 魅力的な景観形成が図られたか(80%以上)を 含め、観光客等に対するアンケートにより本事 業を検証する。	目 標	()	()	()	()	(80 %)
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	・河川延長1,120mのうち河川整備工事(右岸L=29.6m)を実施し、全体計画における整備率2.6%(29m/1,120m)を達成、目標についても概ね達成することができた。累計延長814mとなり72.7%実施済みとなった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本工事は、県道と村道の交差点付近となっていることから、一般交通車両の安全面を十分配慮して、施工を行う必要がある。また、県道の道路管理者等、関係機関との調整を早期に行い、スムーズに整備が行える環境を整える。 ・成果目標の未達成の原因について、工事箇所の作業場確保のため、仮設盛土及び仮設管渠工を実施したことで金額が増となり、当初予定していた施工延長が短くなった。	・関係機関との調整のみではなく、工事箇所周辺の地権者との調整も早期に行い、滞りなく工事が行えるよう努める。
今後の取り組み方針		
・令和6年度は12工区間(左岸側L=36.0m)を予定していることから、6月に設計積算、7月現場説明～入札を実施し、8月初旬の工事契約を目指す。また、関係機関や地権者との調整を早期に行い、工期を年内完成に設定することで、早期着工、完成を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>49,918</td><td>49,918</td><td>39,934</td><td>9,984</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	49,918	49,918	39,934	9,984	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
49,918	49,918	39,934	9,984	0										
今帰仁村 49,918千円 委託費 660千円 (株)大協測量設計 330千円 (株)大協測量設計 330千円 工事請負 49,258千円 (有)新城組 49,258千円 今帰仁城跡周辺環境整備に係る設計積算図面作成(11工区) 今帰仁城跡周辺環境整備に係る設計積算図面作成(12工区) 今帰仁城跡周辺環境整備に係る工事請負費														
資金の流 れ、検 査 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者に関しては、指名競争入札方式で選定し、適切に執行した。 ○予算規模については、予算内で工事発注することができたことから、適正規模であった。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村									
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	2-⑧		景観形成強化事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-3-(2)-ア	
担当部署名	建設課		事業実施 (予定)年度		平成24年度～ 令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		快適で魅力ある観光まちづくり の推進	
事業内容	魅力的な景観形成を図るため、観光ルート且つ昔ながらの景観が残る集落内を対象に、景観に配慮した道路整備の実施及び、次年度以降の工事予定箇所での測量設計委託業務を実施。									
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R9 年度)									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	64,774	61,119	12,011	10,571	40,000			
		(b)予算現額	64,774	56,174	12,011	8,964	40,000			
		(c)増減額(b-a)	0	-4,945	0	-1,607	0			
		(d)繰越額								
	A. 計(b+d)		64,774	56,174	12,011	8,964	40,000			
	B. 執行済額		56,158	44,162	6,762	8,140	29,716			
	うち交付金充当額		53,241	35,330	5,409	6,512	23,773			
	次年度繰越額									
	執行率(%) (B/A)		86.7%	78.6%	56.3%	90.8%	74.3%			
予算の状況の説明		当初排水溝改修工事を予定していたが、12月補正において委託料へ組み換え、測量設計委託業務を実施した。排水溝改修工事は予定よりも施工範囲を縮小したため10,284千円の不用額が生じた。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)			達成状況						
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	観光ルート且つ、昔ながらの景観が残る集落内を対象に、景観に配慮した道路整備とそれに伴う設計・測量、用地補償を行う。 ・排水溝改修工事 ・測量設計委託業務			目 標 (張りコンクリート設置工事・排水路工事・簡易舗装工事・側溝設置工事)	(用地補償排水路工事)	(簡易舗装及び排水溝設置工事に係る測量設計委託)	(排水溝改修工事・測量設計委託業務・地積測量委託業務)			
			実 績	張りコンクリート設置工事・排水路工事・簡易舗装工事・側溝設置工事	用地補償排水路工事	簡易舗装及び排水溝設置工事に係る測量設計委託	排水溝改修工事・測量設計委託業務・地積測量委託業務			
達成状況説明	排水溝改修工事を実施したが当初予定より施工範囲を縮小したため、目標を達成できなかった。目標を達成するため令和6年度以降も継続していく。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)		
	景観に沿った道路整備を行う。また、次年度に工事予定箇所の測量設計委託業務を実施する。			目 標 ()	()	(設計委託の完了)	(工事の完了設計委託の実施)	(アンケートの実施)		
				実 績		設計委託の完了	工事の完了設計委託の実施			
	【参考指標】			目 標 ()	()	()	()	()		
				実 績						
進捗状況説明	排水溝改修工事を実施したが当初予定より施工範囲を縮小したため、目標を達成できなかった。目標を達成するため令和6年度以降も継続していく。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	排水溝改修工事では観光スポットの近くであり、車両や観光客の往来が多く慎重に施工をする必要があった。	県内入域観光客数を参考に工事発注時期を設定し工事施工及び観光客への影響を最小限に抑える。
今後の取り組み方針		
（排水溝改修工事） 入域観光客数が減少する11月の工事発注を目指し作業を進める。 （簡易舗装及び排水溝設置工事） 地権者との交渉を5月～7月に済ませ、8月の工事発注を目指す。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>29,716</td><td>29,716</td><td>23,773</td><td>5,943</td><td>0</td></tr></table> 今帰仁村 (29,716千円) 委託料 (22,807千円) (公社)沖縄県公共嘱託登記 土地家屋調査士協会 1,027千円 (仲尾次地区地籍測量図等作成業務) (有)国政測量設計 11,440千円 (令和5年度景観形成強化事業測量設計委託業務 (古宇利・仲宗根)) (有)国政測量設計 10,340千円 (令和5年度景観形成強化事業測量設計委託業務 (越地・渡喜仁)) 役務費 (199千円) (株)仲本不動産鑑定研究所 199千円 (不動産鑑定評価・個別格差率査定業務) 役務費 (6,710千円) (株)崎浜電気商会 6,710千円 (古宇利渡海原線排水溝改修工事)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	29,716	29,716	23,773	5,943	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
29,716	29,716	23,773	5,943	0										
資金使途の流 点、検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村の契約規則に基づき、工事請負業者は指名競争により入札を行い、妥当であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は設計額に基づき発注しており適正な規模である。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認しており、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村									
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	3-①		今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業				新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章ー3ー(7)ーア	
担当部課名	経済課			事業実施(予定)年度	平成26年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所		おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備	
									Ⅲー1ー(6)	
事業内容	安定した素牛生産地の確立に向け、素牛のブランド化を推進するため、今帰仁村和牛改良組合による沖縄県農業協同組合からの優良繁殖雌牛(貸付牛)の導入に対して支援する。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,500	10,500	10,500	10,500	10,500			
		(b) 予算現額	10,073	10,087	10,330	10,251	10,167			
		(c) 増減額(b-a)	-427	-413	-170	-249	-333			
		(d) 繰越額								
		A. 計(b+d)	10,073	10,087	10,330	10,251	10,167			
	B. 執行済額		10,073	10,087	10,330	10,251	10,167			
	うち交付金充当額		8,058	8,069	8,264	8,200	8,133			
	次年度繰越額									
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画(21頭)よりも3頭増の計24頭の優良繁殖雌牛を導入し、執行残は他事業へ流用した。								
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)			達成状況						
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	21頭導入	目標	(21頭)	(21頭)	(21頭)	(21頭)				
		実績	22頭	22頭	24頭	26頭				
		目標	()	()	()	()				
		実績								
達成状況説明	当初計画(21頭)よりも3頭増の計24頭の優良繁殖雌牛を導入し、1頭あたり50万円を上限に支援を行った。(平均1頭43万円)									
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)		
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合105%以上	目標	()	(110%)	(110%)	(105%)	()			
		実績		103%	100%	93%				
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()			
		実績								
	進捗状況説明	成果目標達成とはならず、導入牛からの子牛と導入牛以外の子牛との価格差は93%と前年度比で下落となっている。セリ価格自体も昨今の物価高騰及び和牛消費低迷の影響により前年度比で大幅に下落している。 【R5年度セリ結果(R5.4月 ～ R6.3月)】 ・導入牛以外の子牛 平均 653,334円 ・導入牛(H26～R4)の子牛 平均 605,980円								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・当初予定していた頭数（21頭）よりも5頭増となる計26頭の優良雌牛を導入したが、執行残（333千円）が発生してしまった。 ・昨今の物価高騰及び和牛消費低迷の影響により、セリ価格が下落している。 ・村内農家に対し平等に導入支援が出来るように事業を行う。	・優良雌牛を導入し、更なる牛の品質の向上及び老廃牛更新の為に、引き続き未導入農家やこれまでに導入頭数の少ない農家に向けた事業説明を行い、今一度認識してもらい事業実施する。
今後の取り組み方針		
・今後の母牛の品質向上を図るため、導入した牛から産まれた雌子牛のうち、発育良好な雌牛を保留する。 ・本事業導入農家を選定する場合は、全体の老廃牛更新を促すためにも未導入農家や導入頭数の少ない農家から優先事項として行う。 ・多くの農家へ導入支援ができるよう未実施農家への情報提供を積極的に行う。 ・更なる母牛の更新、母牛得点の向上を図りつつ、将来にわたって継続的かつ安定的な生産地の確立に繋げるため事業導入牛の優良系統を引き継ぐ産子の保留を推進していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,865	10,167	8,133	2,034	12,698

今帰仁村
10,167千円

補助金
10,167千円

沖縄県農業協同組合
10,167千円

今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業に関する補助金
(受益者負担額:12,698千円)

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先の沖縄県農業協同組合は実績もあり村和牛改良組合とも連携を図れることから妥当であったと考える。 ○予算規模については、計画頭数を導入することが出来たため適正規模であった。 ○受益者負担は、17,655千円で総額(27,985千円)の63%となっており負担関係は妥当だと考えている。 ○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	